

11 神戸大学 × 天津大学 国際ワークショップ

[日時]

2017年6月10日 - 6月16日

[担当教員]

三輪康一 孫玉平 栗山尚子 高麗憲志 (神戸大学)

鄭穎 胡一可 (天津大学)

[参加学生]

伊藤大輝 岡実侑 加藤駿吾 中井修二 小島尚久 小林諒

中川栞里 松田星斗 山本修大 (A65)

大脇春 竹田理紗 (学部4年) 張慧若 (博士課程後期課程)

Zijie ZHAO Jiaying LI Yi AN Xuejiao BI Tong LI Xukang ZHANG

Yawai ZHAO Qian XIAO Gege CHEN Meng ZHOU Yang CUI

Xiao LU Qi WANG Yining WANG (天津大学)

課題：津湾広場の設計を通して天津の都心ウォーターフロントをデザインせよ

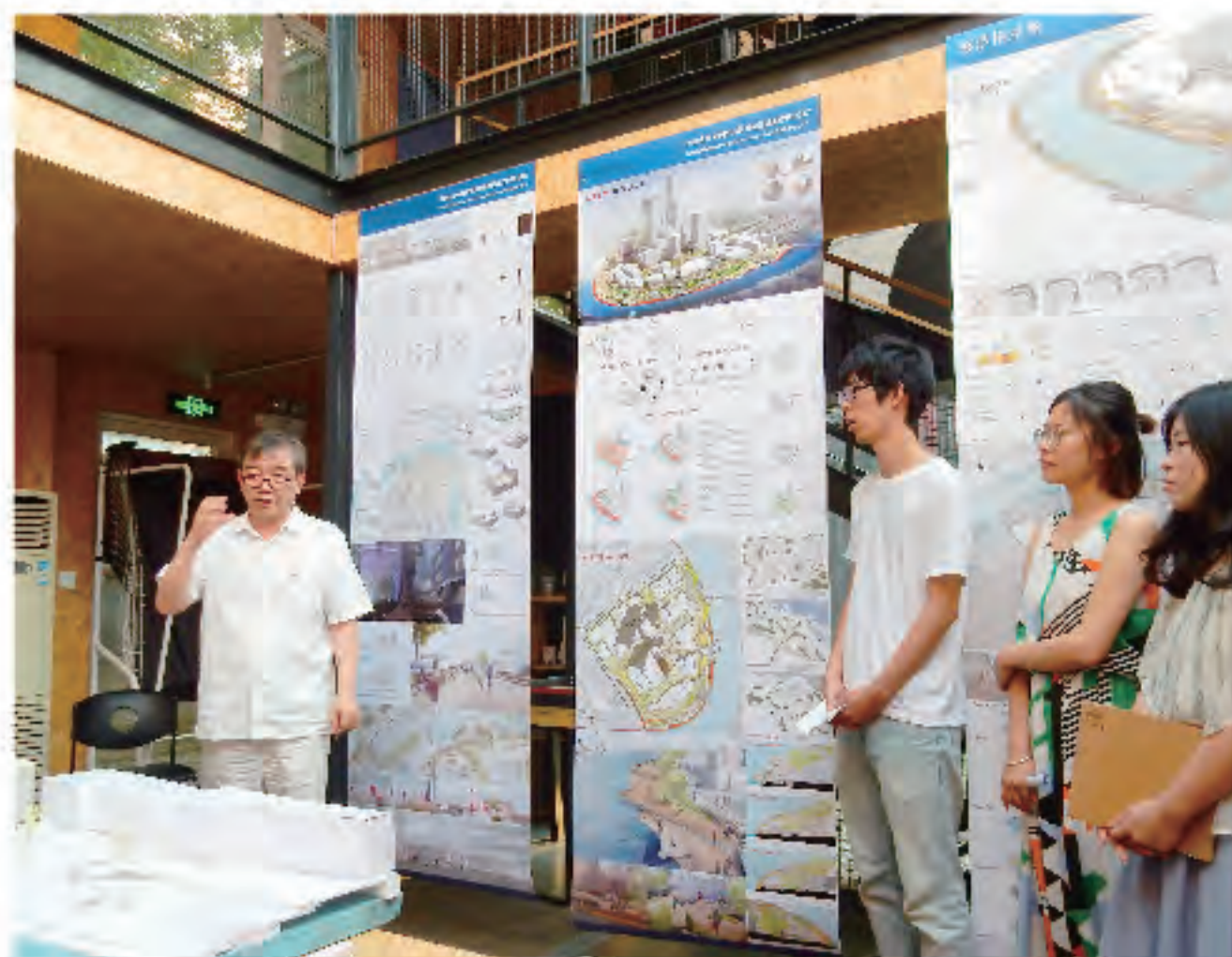
■課題主旨

天津は水運に恵まれ、貿易で発達してきた都市であるため外国人街が多く存在し、都心部周辺は様々な文化が共存する独特の風景がつくられている。計画敷地は運河を挟んで天津駅の向かいに位置し、2008年に再開発された場所である。高層のオフィスビルや複合施設が立ち並ぶが、活気がないことが課題となっている。

そこで、①公共交通の向上②中心部の賑わいの復活③ウォーターフロントの再生④旧住宅街のリノベーションを主なキーワードに、この場所を魅力的に変えるアイデアと戦略を考えてもらいたい。

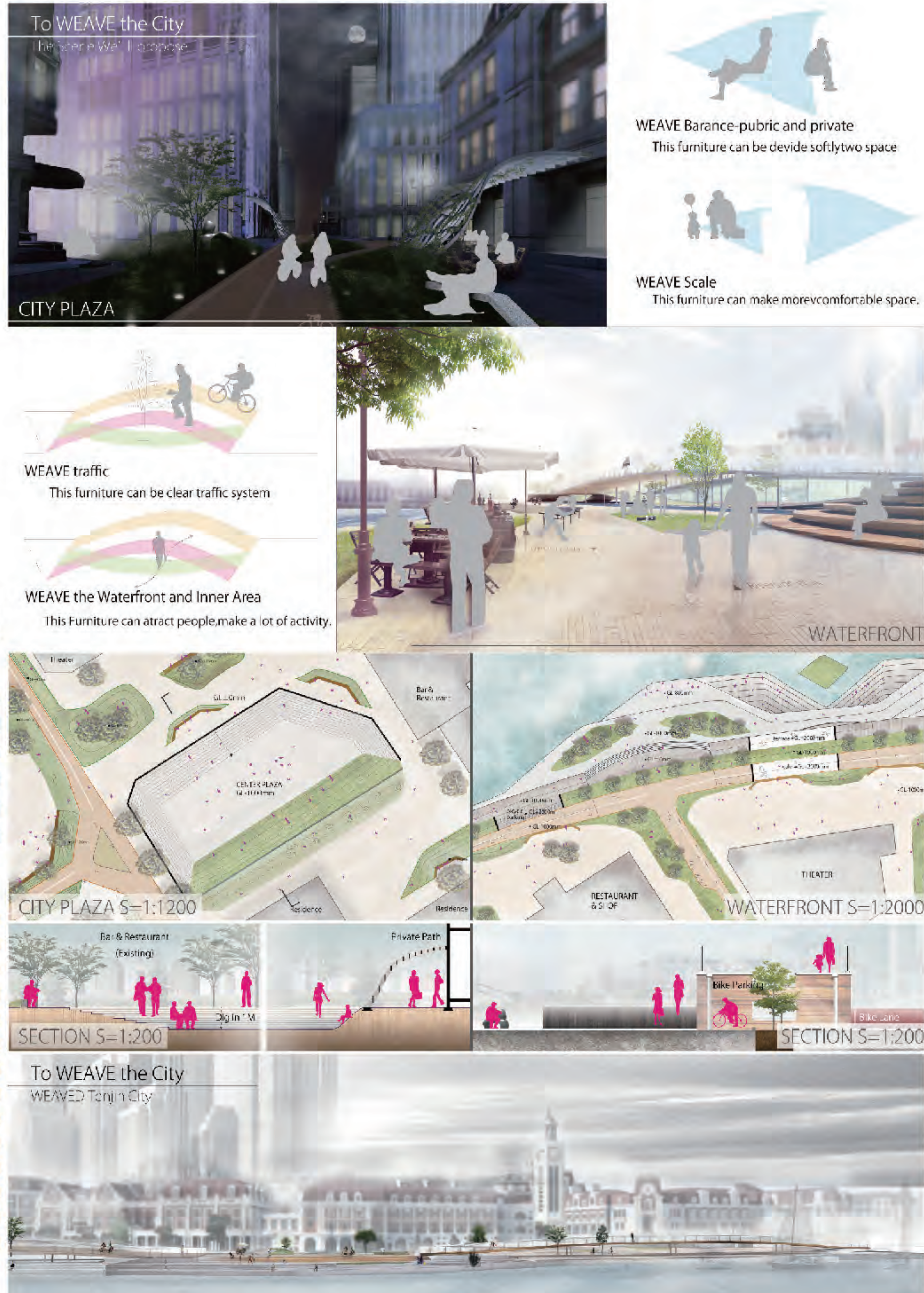
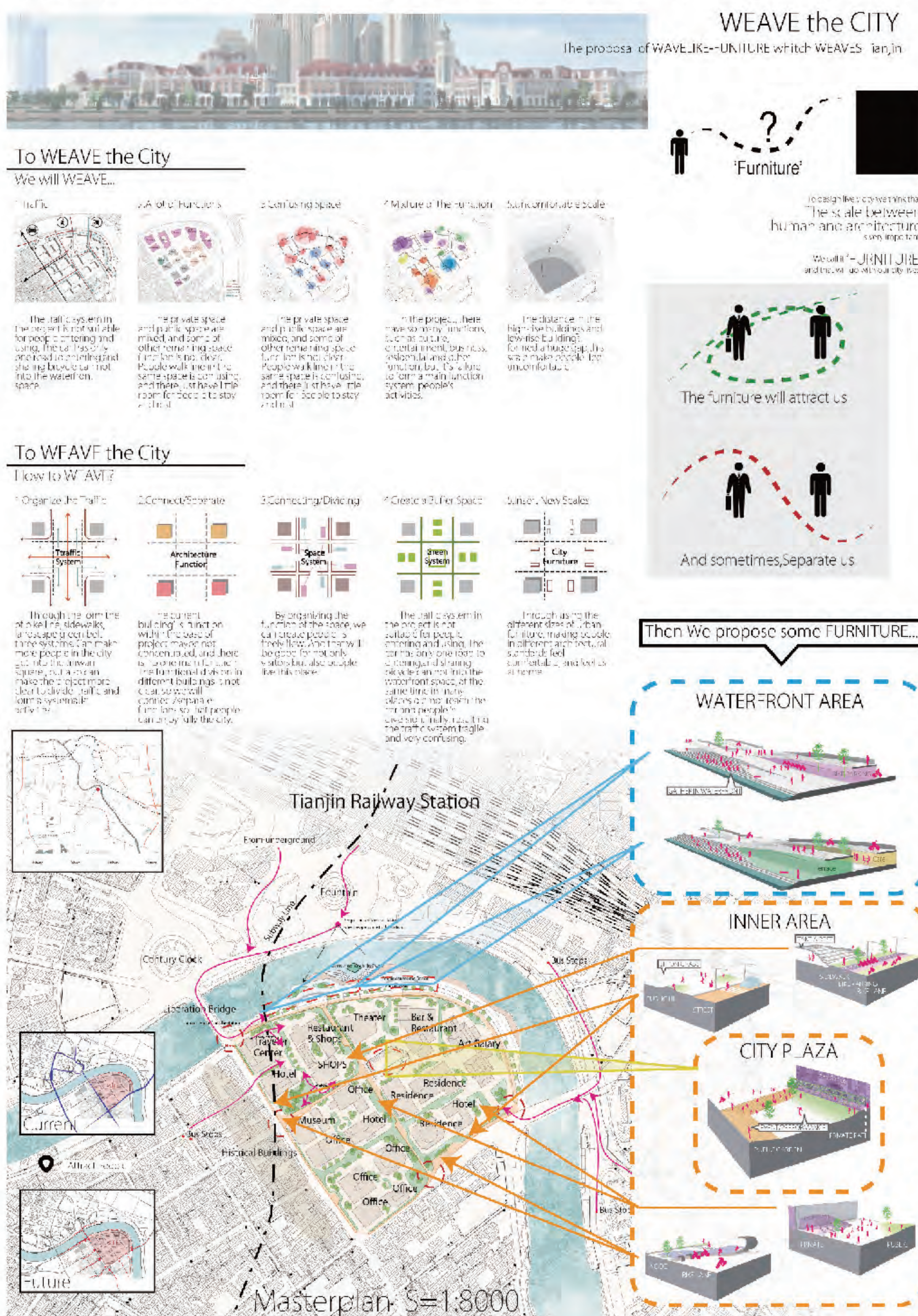
中国・天津大学の学生とチームを組み、活気を失った運河沿いの再開発地区に賑わいを取り戻すアーバンデザインに取り組みました。対象敷地に限らず、天津の様々な場所へのフィールドワークや大学での生活を通して、天津の文化をリアルに感じました。そういった異文化を吸収しながらも客観的に捉えることで、チームワークでは向こうのスタイルに迎合しつつ自分らしい立場を大事にしました。また議論が前進しないときは、ラフスケッチやスタディ模型など共通の表現ツールを駆使して、常にコミュニケーションすることに努めました。濃密な時間を共にした仲間とは帰国後も連絡するほど仲が深まり、このワークショップは設計活動にとどまらないかけがえのない経験となりました。(松田星斗)

課題敷地 (Google Map より引用)



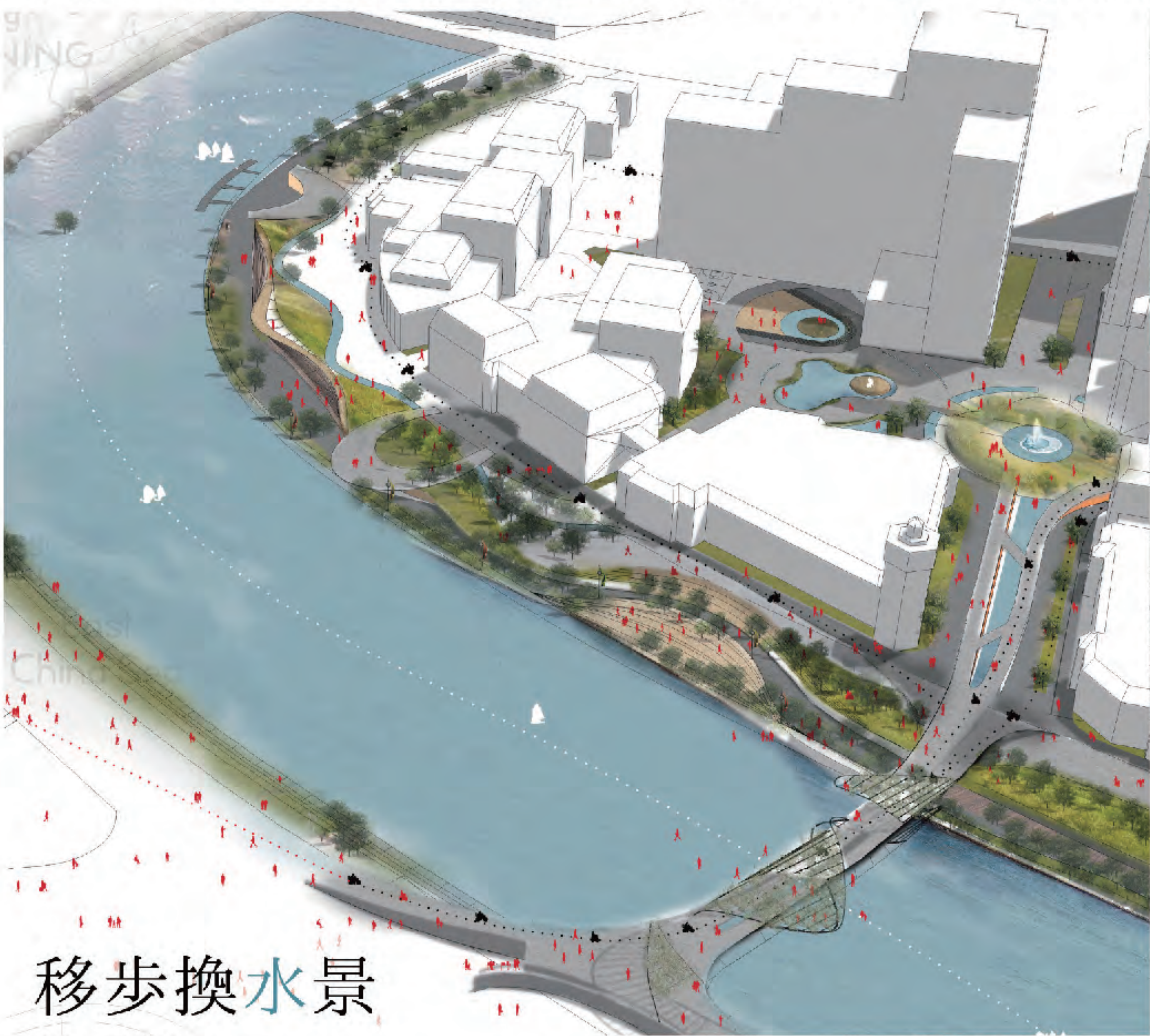
WEAVE the CITY

小林 諒 (遠藤研究室) 岡 実侑 (槻橋研究室) Zijie ZHAO Jiaying LI Yi AN (天津大学)

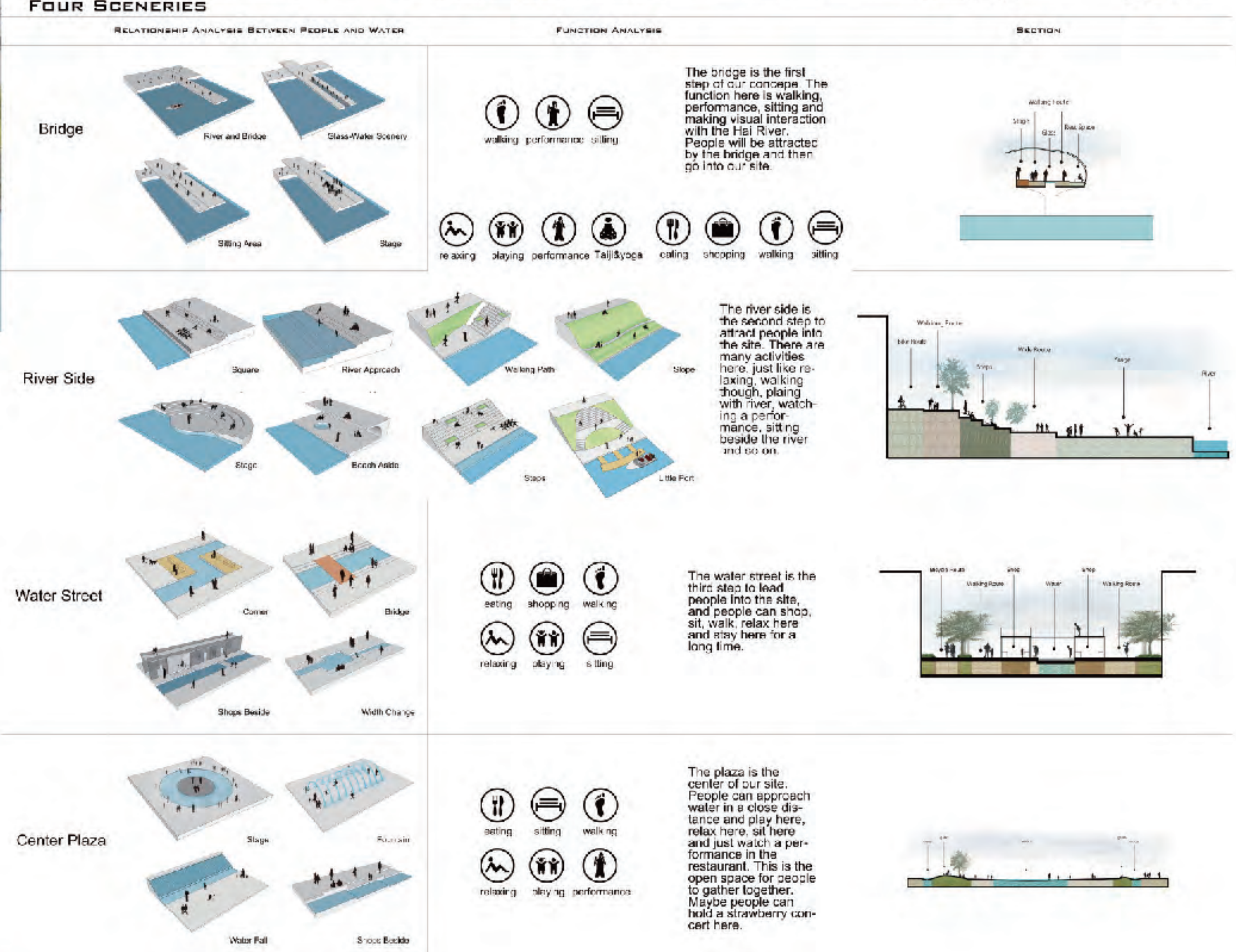
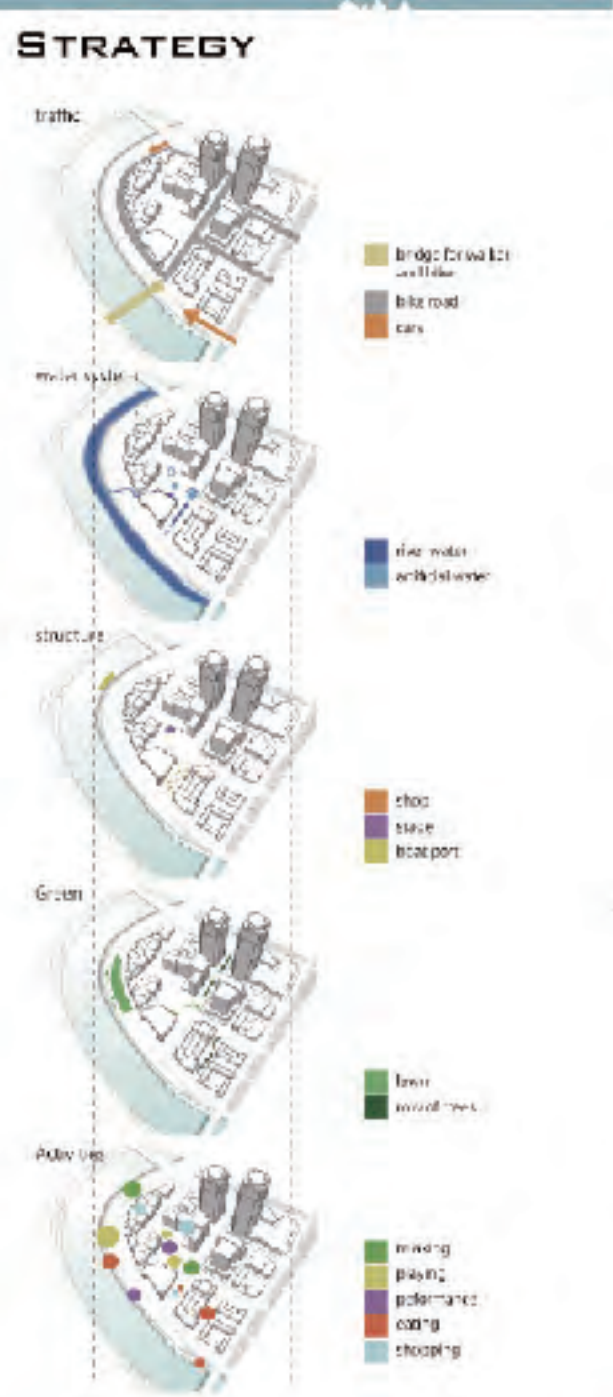
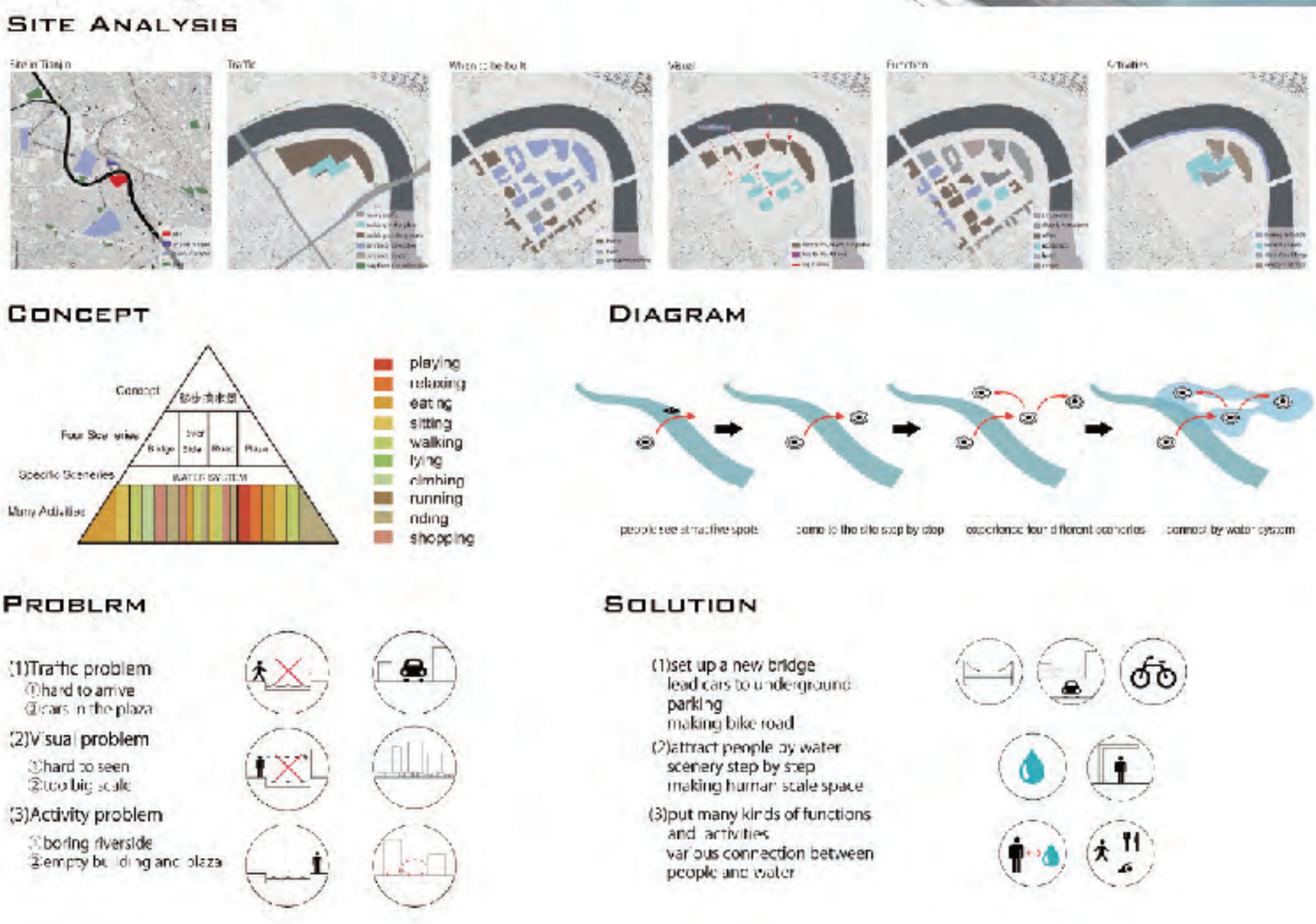


移歩換水景

松田 星斗 (遠藤研究室) 竹田 理紗 (末包研究室) Xuejiao BI Tong LI Xukang ZHANG (天津大学)

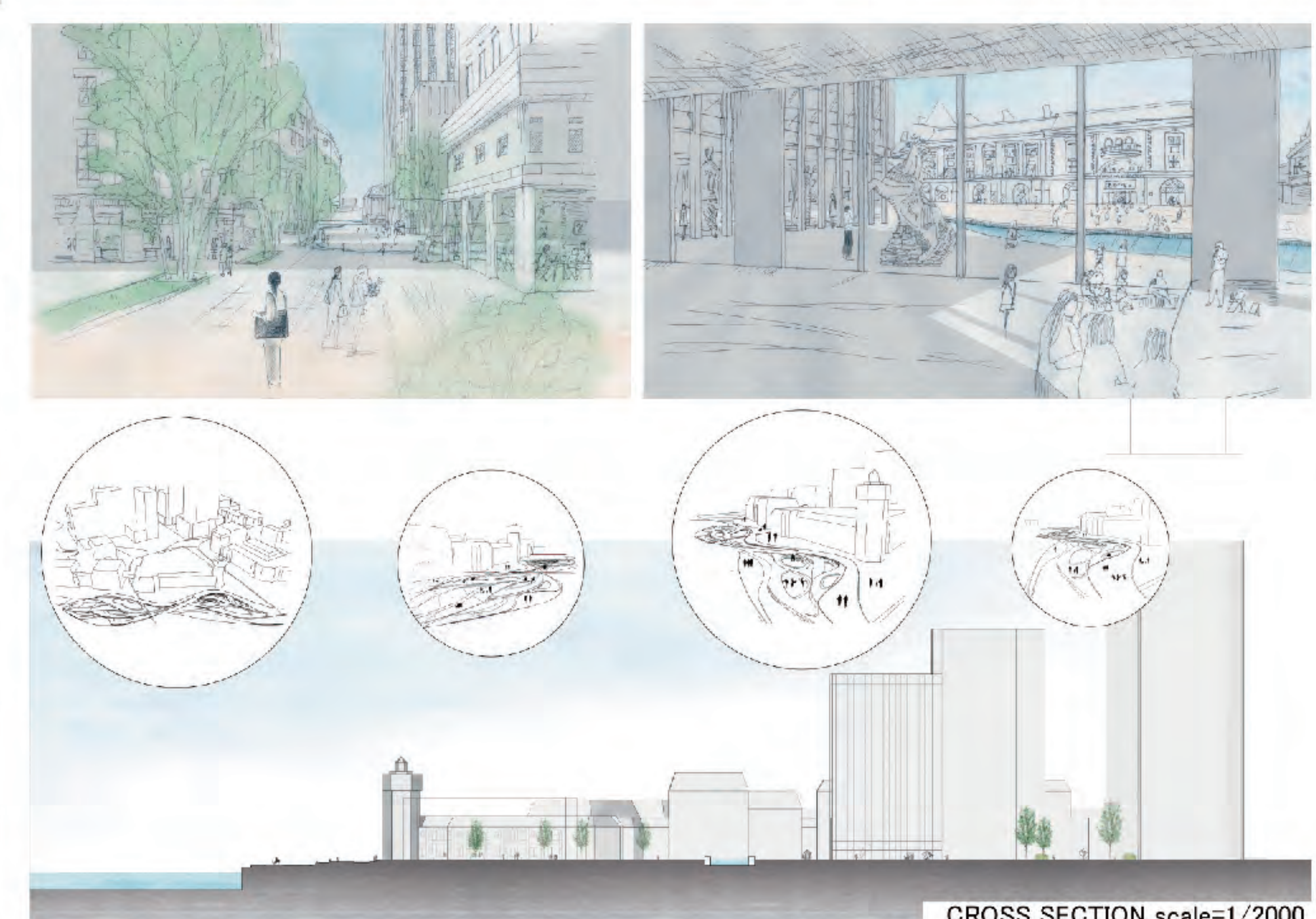
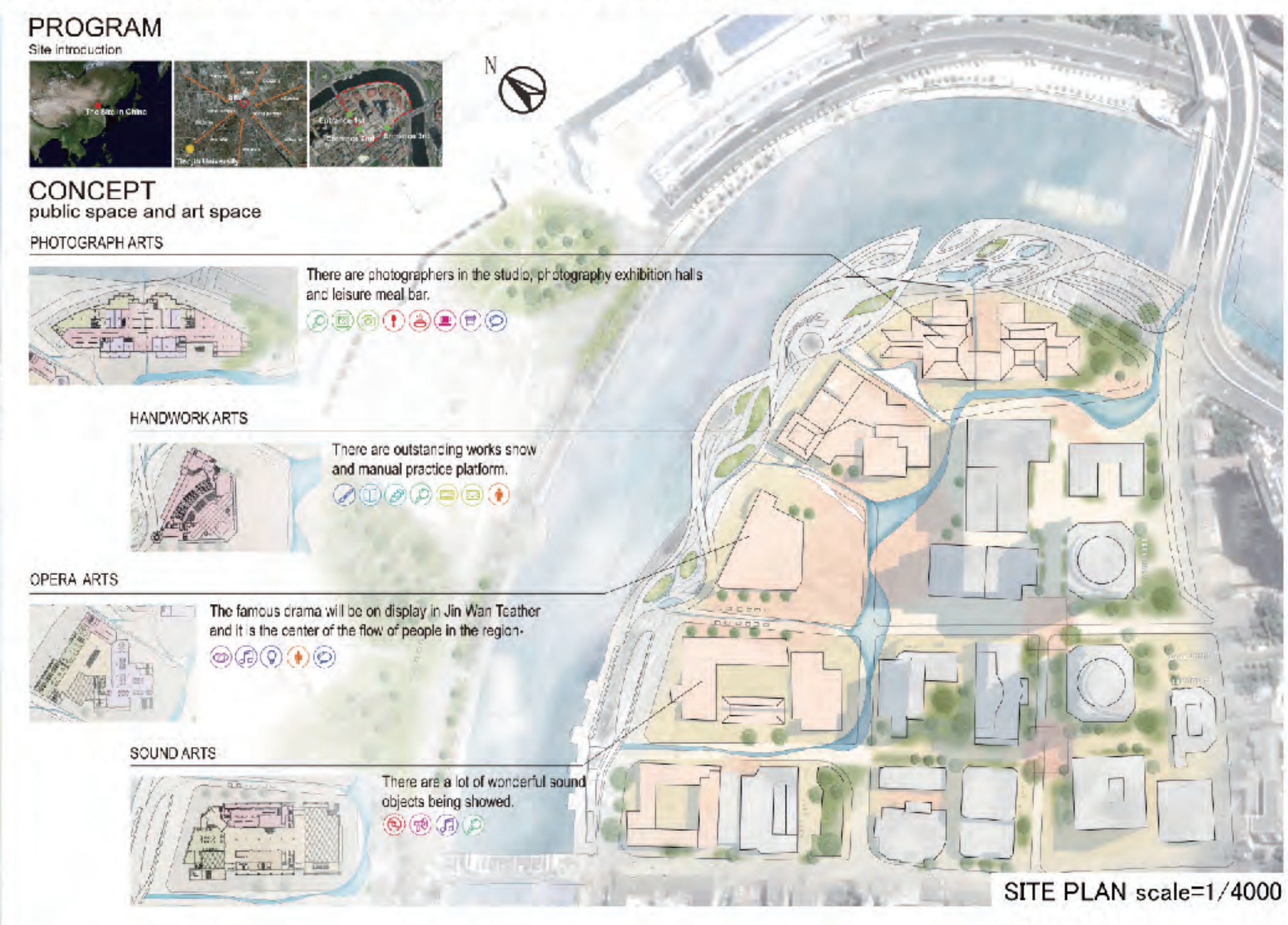
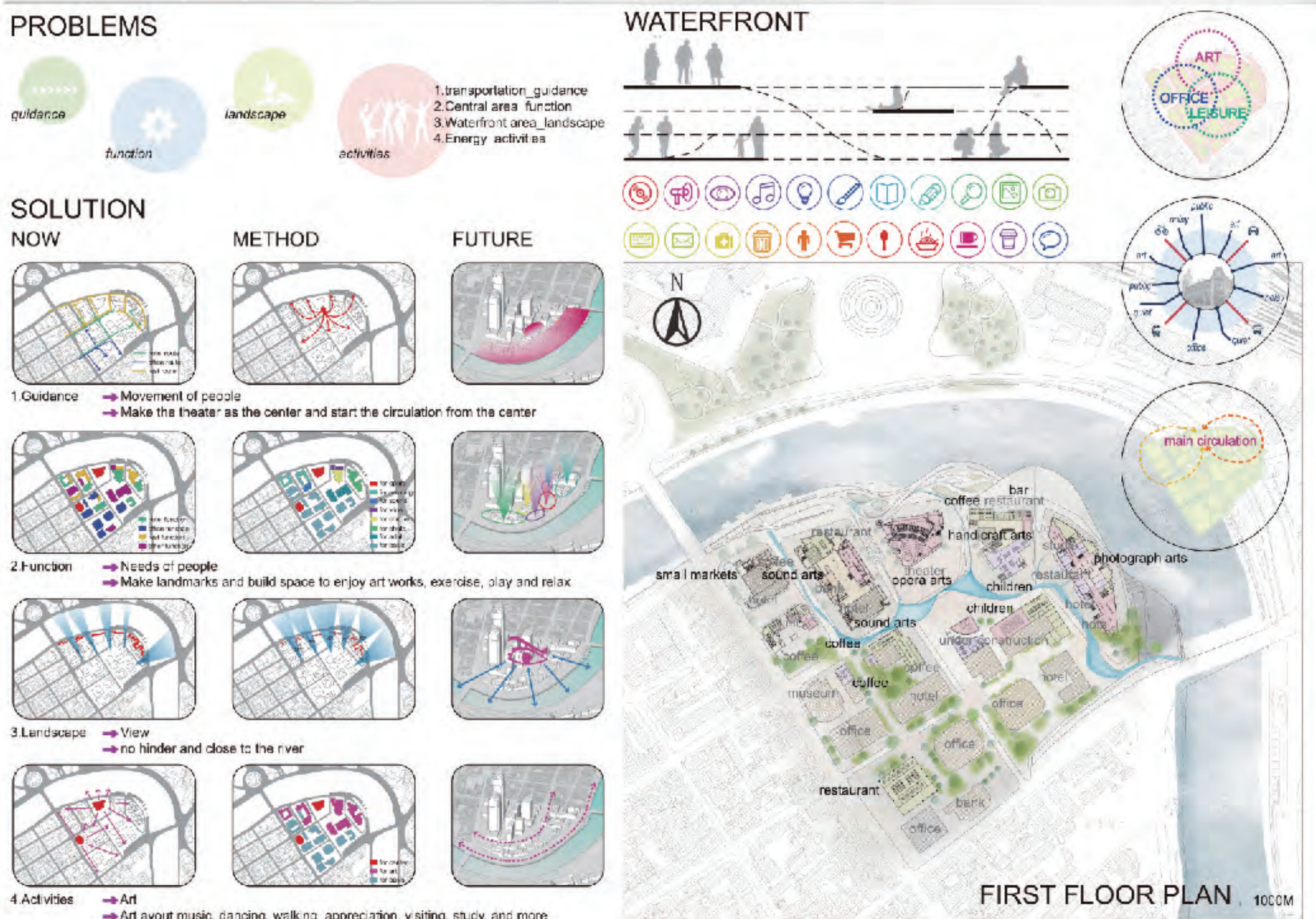


移歩換水景



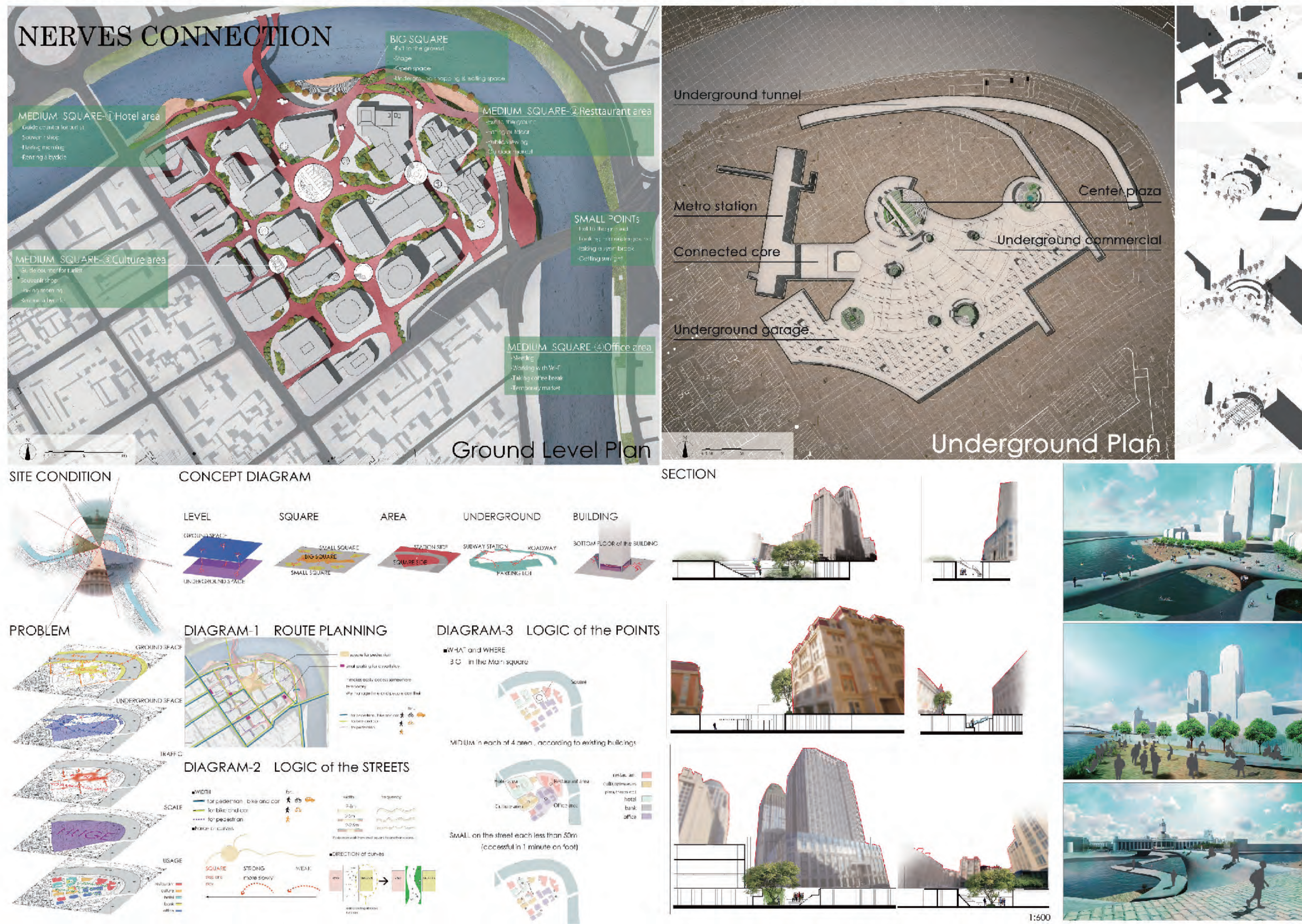
PUBLIC & ART

伊藤 大輝 (末包研究室) 中井 修二 (中江研究室) Yawai ZHAO Qian XIAO Gege CHEN (天津大学)



NERVES CONNECTION

小島尚久 (末包研究室) 中川栞里 (槻橋研究室) Meng ZHOU Yang CUI (天津大学)



CITY HOUSE

加藤駿吾 (槻橋研究室) 大脇春 (中江研究室) Xiao LU Qi WANG Yining WANG (天津大学)



12 神戸大学 × モナシュ大学 MADA 国際ワークショップ

[日時]

2017 年 9 月 10 日 - 9 月 16 日

[担当教員]

槻橋修(准教授) Ari Seligmann(モナシュ大学)

[参加学生]

大崎真幸 岡実侑 加藤駿吾 川添浩輝 木村健
楠満葉 小林諒 中川栞里 松田星斗 山本修大(A65)

Tori Caljouw Charles Lane Katrina Owers Jamie Danino

Davis Clarke Ambrose Zacharakis Marcella Palma Kimberley Hui

Xueting Wu Aleksandra Jovanovic (モナシュ大学 MADA)

課題：TOWARDS A HYPER WALKABLE CITY

梅田のミライへの歩き方ー歩いて楽しいまちづくりへむけてー

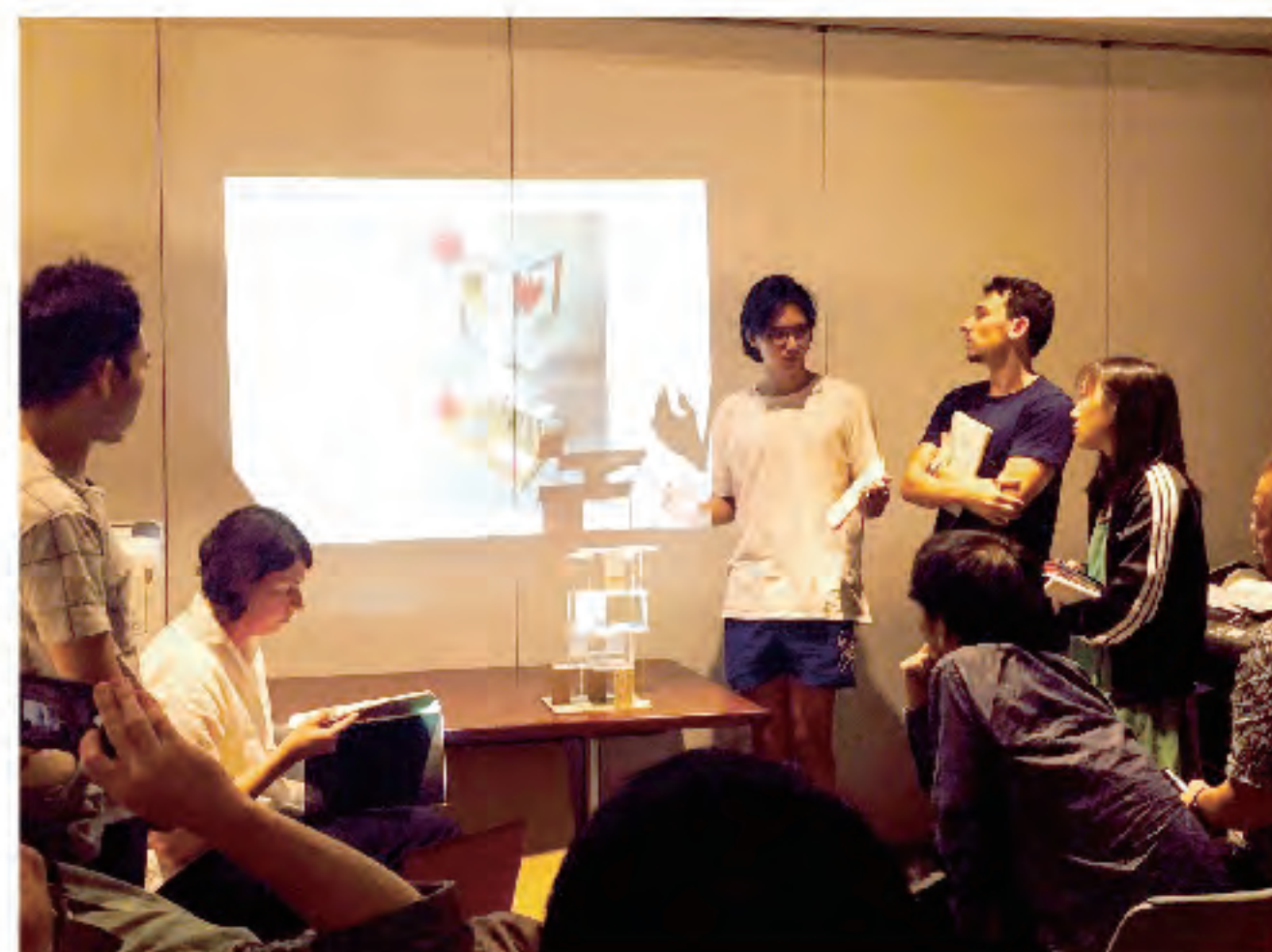
■課題主旨

立体的な都市空間(ハイパーシティ)における「歩きやすさ」とはなにか。大阪・梅田地区は一日の乗降客数が250万人を超える西日本最大のターミナルを有する地区であり、近年ではうめきた地区の開発などが進んでおり、梅田の街は大きく変貌を遂げている過程にある。大阪・梅田の大きな変化を単に床面積の増加に終わらせるのではなく、巨大都市における「生活の質」の新しい地平を切り拓く機会ととらえ、未来の大阪・梅田における「ウォーカビリティ(歩きやすさ、歩いて楽しいこと)」を今一度問い直す。



課題：敷地 (GoogleEarth より引用)

▼神戸大学とモナシュ大学 MADA の学生によるワークショップ / 敷地見学 / 事務所見学 / 建築見学の様子



オーストラリア・モナシュ大学 MADA との合同ワークショップでは、大阪・うめきた二期エリア周辺をフィールドワークによって実際に歩き、10 年、30 年、50 年先に向けて都市にどのような提案が可能かをテーマに 1 週間にわたり協働して、「Walkble City」のデザインに取り組みました。

提案にあたり議論を進めていくうえで、日本人の英語スキル不足による障害を感じた瞬間もありましたが、そうした際には状況を視覚的に図式化したダイアグラムを描くことが非常に相互理解を助け、考えを共有していくことができました。アウトプット、ヴィジュアルイゼーションの手法には互いに大きな傾向の違いがあり新鮮な部分もありましたが、状況分析や提案へのプロセスには多くの共通部分を感じました。

グループワークは、各々が積極的に意見を持ち主張することは勿論のこと、一週間という時間のなかでグループとして提案、結論に導くための計画性も求められました。ワークショップが進むにつれ、英語のコミュニケーションが慣れ始め、お互いの考え方が明確化することによって、より深い議論を進めていくことができました。本ワークショップにおける経験は今後社会に出てからも必ず役に立つ、かけがえのないものであったと確信しています。

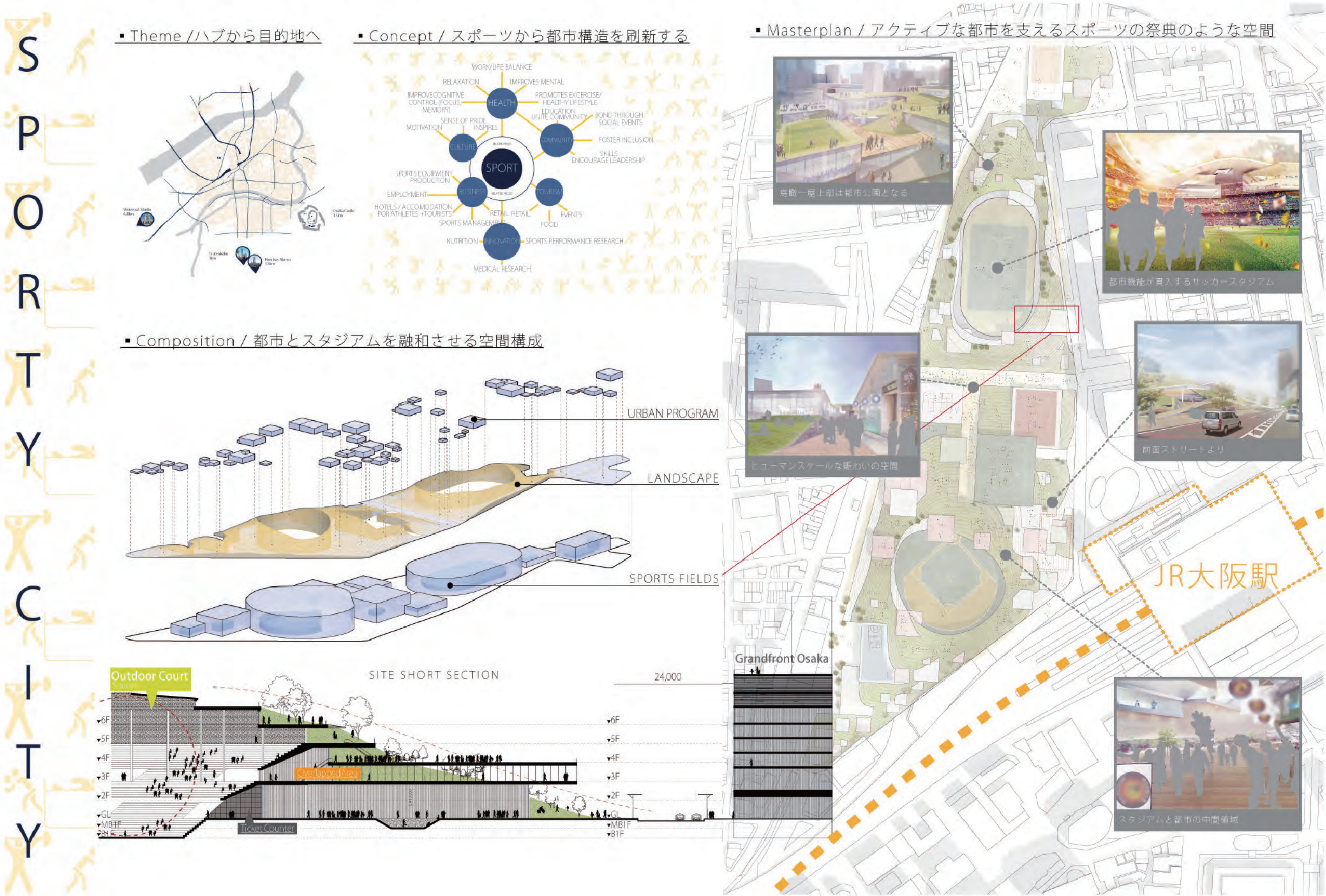
またモナシュ学生は、アウトプットスキルや決断力にとっても優れているように思えました。彼らから多くの刺激を受け、私たちも何事においてもより意欲的に取り組んでいきたいと思いました。(大崎真幸)



▲中間・最終プレゼンテーションの様子

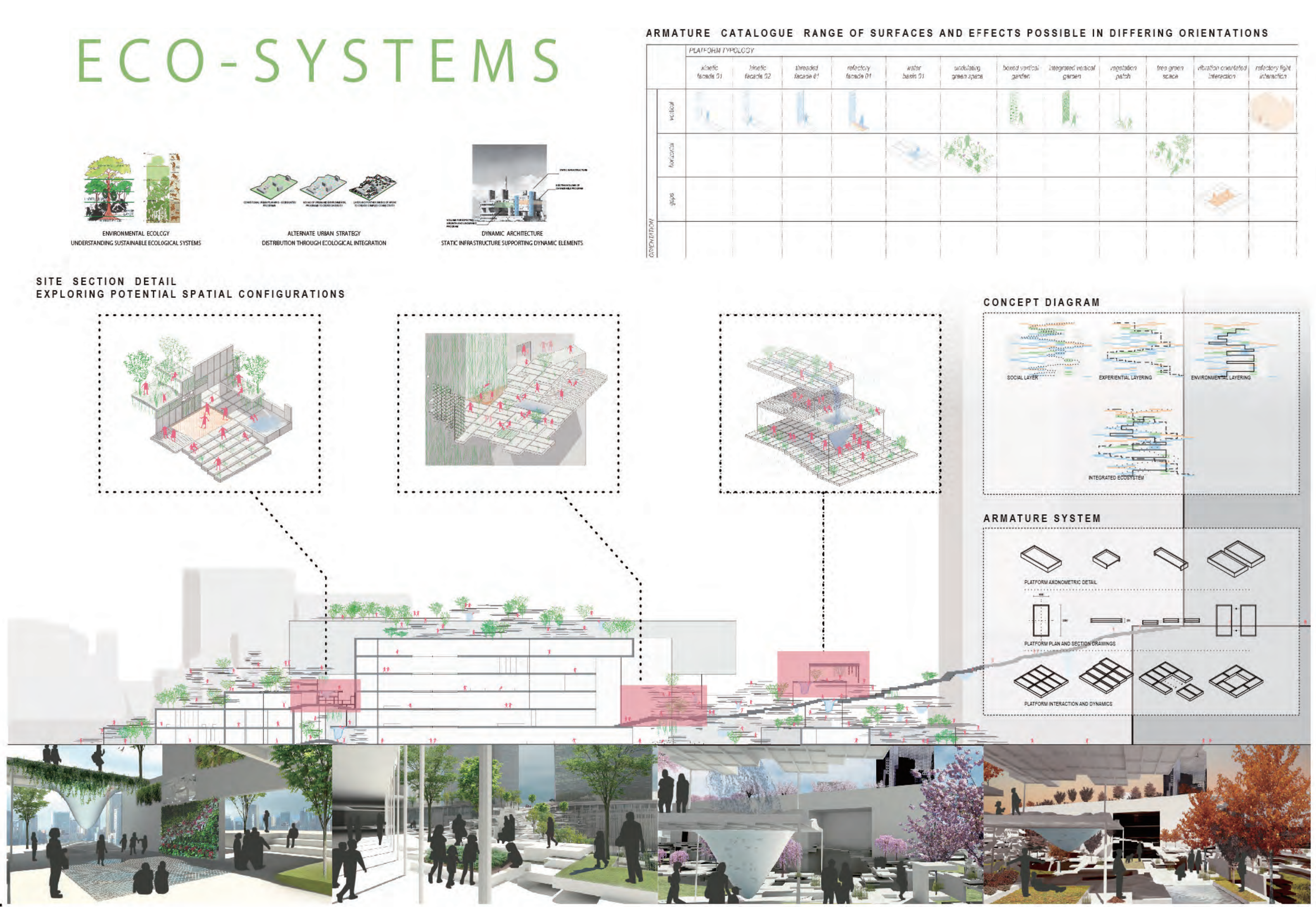
Sporty City

小林諒（遠藤研究室） 加藤駿吾 中川栞里（槻橋研究室） Carlie Lane Tori Caljouw (Monash University)



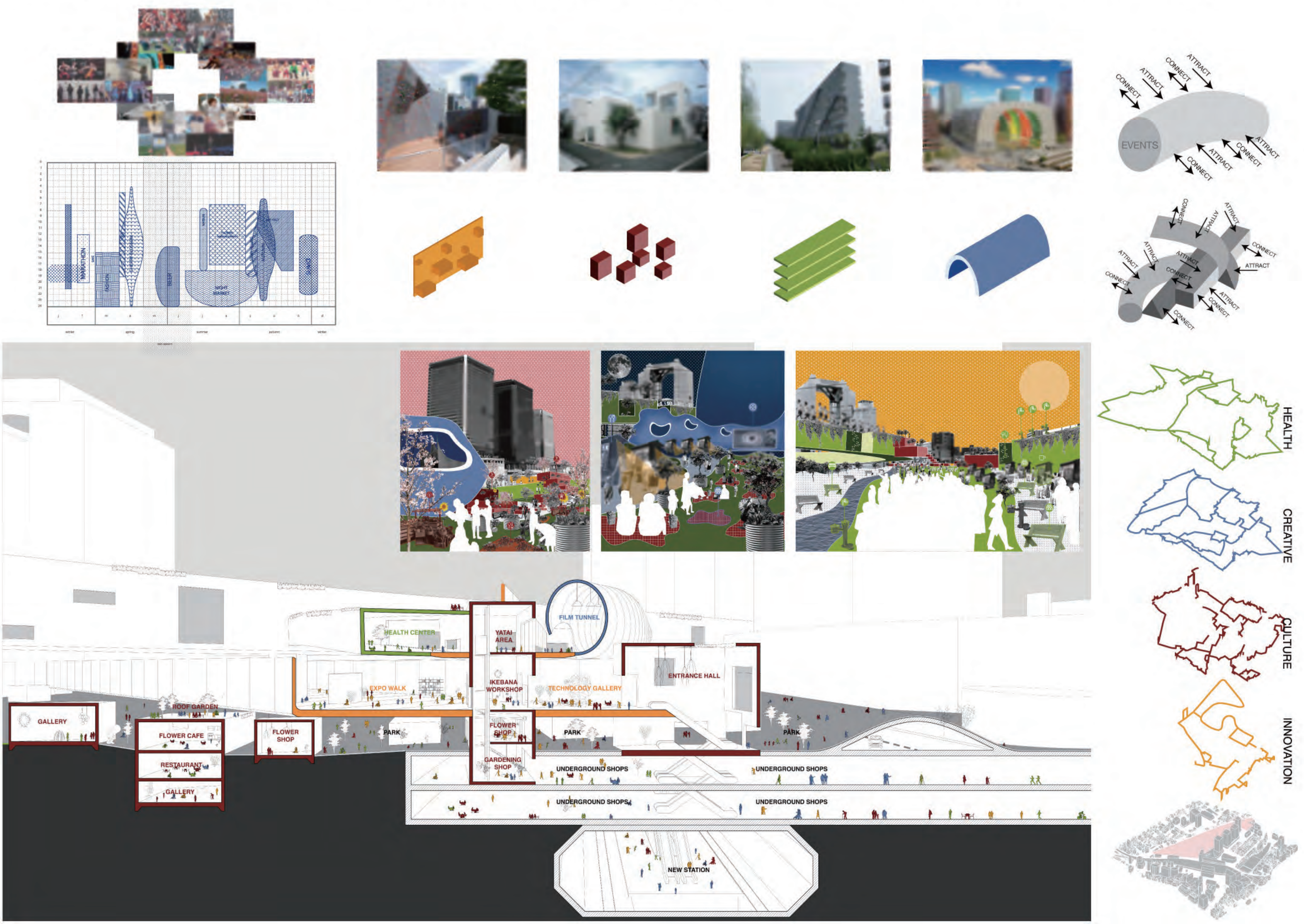
ECO-SYSTEMS

大崎真幸（槻橋研究室） 楠満葉（遠藤研究室） Katrina Owers Davis Clarke Jamie Danino (Monash University)



EVENT CITY

岡実侑 (槻橋研究室) 木村健 (黒田研究室) 山本修大 (遠藤研究室) AMBROSE MARCELLA (Monash University)



Umekita oasis - うめきたオアシス -

松田星斗 (遠藤研究室) 川添浩輝 (槻橋研究室) Kimberley Hui Aleksandra Jovanovic Xueting Wu (Monash University)

